高知県　中芸地区商工支援センター

経営指導で戸別訪問

5町村全域巡回へ

中芸地域5町村の商工会の広域連携組織として発足した「中芸地区商工支援センター」（事務所：安芸郡田野町）は10月16日、経営指導員による商工業者の戸別訪問を5町村全域で実施。広域での指導業務が本格的にスタートした。

同センターは県内初の商工会広域連携組織として発足。各町村の商工会の経営指導員と事務局長1人の計6人が出向し、4月からの全面的な連携に向けた準備を進めながら、町村の垣根を超えた経営指導に当たることにしている。

戸別訪問は指導事業の第1弾。指導員はこれまで受け持ってきた町村以外を担当することに決まったため、あいさつ回りを兼ねて地域の商工業者の実情や要望を探ろうと戸別訪問を実施した。

この日、田野町新町の文房具店には、安田町、奈半利町、馬路村の各商工会で業務に当たっていた指導員3人が訪問。店主から「店づくりについてアイデアを練っているところ。いろいろ相談に乗ってほしい」と求められ、「意欲ある経営者は、指導員全員が全力でサポートします。頑張りましょう」と応じていた。

戸別訪問して経営者に新組織の概要などを説明する指導員

同センターの小谷陽一指導員は「明るい展望を抱けていない経営者も多いし、田野町に拠点を置いたことで、他町村では指導体勢を心配する声も聞く。積極的に動き回り、信頼を得られるように努めたい」と話している。

沖縄県　座間味村商工会青年部

公募で伝統産業を再び

受け継ごう先人の知恵と技

座間味（ざまみ）村商工会青年部（宮平清志部長）はこのほど、伝統産業のかつお節製造を復活させようと、県商工会青年部連合会の提案公募型事業で、「ケラマカツオ節」作りに取り組んだ。

豊富な漁獲高と、琉球松を燃料にしたケラマカツオ節はかつて高級食材として知られていたが、1970年代から産地間の競争に巻き込まれたうえ、重労働を嫌った若者たちが敬遠。今では自家製のかつお節がわずかに作られている状態。

製造指導は村内の宮平秀昭さん（77）。かつお節の製造工程は繊細で、宮平さんは「鮮度がよすぎても駄目なので、いい目利きになることが大切。釜ゆでのタイミングも狂うとひび割れが起き、商品価値が低下する」と厳しく注意した。

青年部は「来年の村産業祭りには青年部手作りのかつお節を出品したい」と、伝統技術習得に意欲を燃やしている。

長崎県　吉井町商工会

「寄って見店」オープン

空き店舗貸し出しで趣味の作品など販売

吉井（よしい）町商工会（佐藤一男会長）が、町内の空き店舗対策としてスーパー跡地約150m²に開設準備を進めていた空き店舗活用実験店「寄って見店」が11月1日、期間限定でオープン。多くの買物客でにぎわった。

同事業は空き店舗を借り上げ、出店希望者に貸し出し、売上の一部を運営費にする。営業期間は11月いっぱいで、にぎわいを創出し、活性化につなげるのが狙い。

「寄って見店」には、無農薬野菜、農産加工品、観葉植物、陶器、竹細工、木工製品、手芸品、古着などを扱う12個人・団体が出店した。憩いのスペースや住民が絵画を展示できるコーナーも設置。商工会が、町内を花で埋め尽くす「花国運動」で植えた1万本のヒマワリの種から取った油を使ったクッキーとキャラメルも振る舞われ、「自然の甘みがいい」と好評だった。

手芸品を出した古川洋子さんは、「作品の評価を直接聞くよい機会。町活性化の一助になれば嬉しい」と張り切っている。

山形県　最上7町村商工会女性部連絡協議会

方言や雪の活用を提言

観光エリアを女性の視点で

最上7町村商工会女性部連絡協議会のメンバーが、最上地域の観光エリアを巡回チェックし、女性の視点に立った改善策や振興策を提言する「広域観光ルート策定事業」が3年目を迎えた。本年度は鮭川村と戸沢村エリアを対象に見直し作業を実施。このほど報告書にまとめ、行政側に提言した。

この事業は2001年度からの4ヵ年事業としてスタート。2002年度は金山、真室川、2003年度は舟形、大蔵にターゲットを絞り、女性ならではの視点で、埋もれた観光資源を発掘したり課題を浮かび上がらせてきた。

今回も、各商工会女性部のメンバーらが鮭川村の庭月観音、小杉の大杉、羽根沢温泉、向居薬師堂、鮭の子館、エコパーク、戸沢村のぽんぽ館、高麗館、舟番所、最上峡ふるさと村・遊歩道・仙人堂、リバーポート、幻想の森を巡回し、道路標識や案内・対応など10項目をチェックした。

事業の報告会

会員からは「幻想の森の入口がわからない」「羽根沢温泉からエコパークへの人の流れをつくるべき」「エコパークのキノコ料理に高麗館のキムチも利用しては」など、率直な感想が集まった。トイレや接客態度、PRに関する注文も多かった。

そのうえで、「幻想をいざなう雪の商品化による通年観光」「最上地区を統一した標識の発案」「もてなしの心得として、“とっておきの最上地方の方言”の活用」など5項目を提言としてまとめた。

メンバーや行政関係者らが出席して開かれた報告会では、アドバイザーを務めるフリーライターの水戸部浩子さんが「女性1人の観光客は男性5、6人分に値する口コミ効果がある。いかに女性の関心を得るかが最大の課題」「生活感覚を持った女性の具体的な声こそが大切。行政側は、施策の中にぜひそうした声を取り入れてほしい」と語った。

スクランブル

群馬県　万場町、中里村商工会

合併に向けて契約書に調印

新名称は「神流町商工会」

万場（まんば）町と中里（なかざと）村の両商工会の合併契約調印式が11月28日、万場町商工会館において行われ、４月１日より神流（かんな）町商工会としてスタートする。

調印式は、宮前町長が立ち会いを務める中、黒澤、高橋両会長が合併契約書に署名、捺印。両商工会は式に先立って同日午後、それぞれが臨時総会を開き、双方の合併と合併契約書を全員一致で承認した。

両町村はともに山間地域の商工会として過疎や地域活性化など共通の悩みを抱えていたが、行政合併を機に両方の商工業者が一体化し、より強力に地域活性化を推進していきたいとの要因があった。両商工会の合併は群馬県では第１号となる。

両商工会は、一昨年の５月に県の商工会等広域連携等地域振興対策事業費による事業として合併問題研究会を設置し、認識を深めてきた。昨年５月に合併協定書を締結した後、６月より協議会を設置して具体的な合併協議を重ね、10月に基本合意に達した。

合併の方式は、両商工会が対等である新設合併方式。事務所は現在の万場町商工会に置く。

福島県　会津地区商工会女性部連絡協議会

会津の食、試食交流会

26部が自慢料理を出品

会津地区商工会女性部連絡協議会が、郷土料理を後世に伝えようと企画した「会津地域郷土料理伝承事業」の試食交流会が11月18日、会津若松市で開かれた。26商工会の女性部から出品された郷土料理65点は、写真やレシピが入った報告書にまとめる予定だ。

「スローフード」や「地産地消」の各種運動で注目を集めている郷土料理を再発見するとともに、後世に継承することで地域の活性化にもつなげようと企画したもので、「おらが町・おらが村の郷土料理試食交流会」と銘打ち、約150人が参加した。

会場には「ニシンの山椒漬け」「こづゆ」などの郷土料理、会津坂下町の馬肉、会津高田町の高田梅、新鶴村の薬用ニンジン、昭和村のオリンダなどの食材で、工夫を凝らした料理が並んだ。各女性部の代表が出品作の特徴などを説明し、会津の食材を活かした伝統の味・新しい会津の味に、参加者たちは舌鼓を打っていた。

実行委員長の鈴木元子会長が挨拶した後、瓜生秀雄会津地区商工会連絡協議会長、蒲生克県商工会女性部連合会長が祝辞を述べた。

富山県　大山町商工会

「よってかれ家」オープン

空き店舗にコミュニティー施設

大山（おおやま）町上滝の中心商店街の空き店舗で改装作業が進められていたコミュニティー施設「街角サロン　よってかれ家（や）」が10月11日にオープンした。

町商工会（山元一夫会長）が中心商店街を地域コミュニティーの場として利用し、にぎわい創出を図ろうと計画。国や県の補助を受け、食品店だった空き店舗を改装した。

敷地面積は約310m²。畳の休憩コーナーや喫茶コーナーなどを設け、フリースペースではチャレンジショップも開く予定。壁には地元住民の作品などを展示する。子育てサロンや映画上映、パソコン体験教室なども定期的に開いていく。

竣工式には、清水町長、山元商工会会長ら約60人が出席。式後、茶会や手芸品の展示、町社会福祉協議会による健康診断などがあり、施設前で「いきいき大山食まつり」も開かれるなど、幼児からお年寄りまで大勢の人でにぎわった。

開館は月曜を除く毎日午前９時半～午後５時半。

宮崎県　宮崎市生目商工会

販路開拓へ試作品

試食会でアンケート

黒皮カボチャを使った特産品開発に取り組む宮崎市生目（みやざきしいきめ）商工会（長友美利会長）はこのほど、生目の杜運動公園のオープニングイベントで試作品の無料試食を行い、アンケート調査を実施した。結果を試作品に反映させ、販路開拓に乗り出した。

試作品は、生目地区で生産される黒皮カボチャを使用。アイスクリーム、カボチャの浅漬けやキムチなどの漬物、カボチャをあんこと生地に使ったかるかん、カボチャの粉末を使った乾めんで、宮崎農高や地元の菓子店が開発した。

試作品は11月末に東京の物産展に出品、ここでもアンケートを行って販路開拓の参考にする。

特産品開発は県の補助を受けて昨年度から実施。生目地区の黒皮カボチャ農家28戸は年間380tを生産しており、関西を中心に出荷しているが、規格外のものを使って何かできないかと加工品づくりに取り組んだ。

同商工会では「プロ野球ダイエーホークスのキャンプも始まる。新たなおみやげ品ができれば」と意欲をみせている。

福岡県　筑紫野市商工会

パンジーを1,700事業所に

花いっぱいで町を明るく

筑紫野市（ちくしの）市商工会（帆足忠勝会長）が11月15～16日、全会員の約1,700事業所にパンジーを配る「花いっぱい運動」を行った。来春まで色鮮やかな花を咲かせるパンジーで景気低迷に苦しむ事業者を元気づけようと企画したもの。

商工会青年部と女性部の会員らが、同市湯町の商工会館駐車場で1,800個のプランターに紫、赤、黄色のパンジーを４株ずつ植え、地区の役員を通して各事業書に１鉢ずつ配った。

帆足会長は「きれいな花で街並みも会員も明るくしたい。商工会と会員の連携強化にもつながれば」と話していた。

情報